



開成地区 サステナビリティレポート 2014年度



ごあいさつ

私たちは、地球の豊かな自然環境を保全し、それを次世代に残す責任があります。しかしながら最近では、人間の経済活動がもたらす地球温暖化が原因と思われる異常気象により、世界各地で災害が頻発し、新興国では経済発展に伴う大気汚染なども深刻化してきています。このような地球規模の環境変化は、人々が安心、安全に生活していく上で大きな脅威となっており、この環境変化をミニマイズしていくことが必要です。このため、今まで以上に地球環境に配慮した社会インフラの整備やライフスタイルの確立が求められています。企業においても、地球の豊かな自然環境を守るため、先進の科学技術の応用展開により、環境に配慮した製品やサービスの提供を行うと共に、環境負荷の少ない事業構造を確立していくことが求められています。

富士フィルムは、企業理念として「先進・独自の技術をもって、人々の生活の質のさらなる向上に寄与する」ことを掲げ、「富士フィルムグループ グリーンポリシー」を制定し、「製品・サービス・企業活動における高い"環境品質"を実現することで"持続可能な発展"に貢献する」ことを目指して、グループ全体で環境活動に取り組んでおります。

富士フィルム開成地区は、1981年に宮台技術開発センターとして開所し、2006年に開所した先進研究所と共に、富士フィルムグループの研究開発の中核拠点として、医療機器、ライフサイエンス機器、インクジェット関連機器・材料、高機能材料、医薬・ヘルスケア製品の開発を行なっております。社会の“持続可能な発展”に貢献するため、多くの皆様を選んでいただけるような、高品質・高機能でありながら環境価値にも優れた、先進的な製品やサービスを開発し続けて行くことが、研究開発拠点である富士フィルム開成地区の責務だと考えております。この活動を推進し、製品開発時の環境負荷を最小限に抑えるために、環境マネジメントシステム ISO14001（1998年認定取得）を引き続き発展運用していくと共に、周辺環境との調和および地域社会との共生を大切にし、その維持・向上に努めてまいります。

富士フィルム開成地区の近年の重点実施内容は、以下の4点です。

- ①製品の環境配慮設計への取り組み：欧州のREACH規則への対応、LCA（ライフサイクルアセスメント）評価の継続的な実施に加え、2014年の医療機器のRoHS指令対応開始に向け、内視鏡を含めた医療機器の環境配慮設計を行っています。
- ②CO₂排出量削減への取り組み：宮台開発センターでは、照明器具や配電トランスの老朽更新の際のトップランナー機器の採用、エレベーターや個別空調の省エネ化を推進しています。また、先進研究所では、太陽電池や地下冷却水貯留システムなどの最新の省エネ設備の稼働、全体空調の外気自動連動による省エネ設定、個別空調の省エネ化を推進しています。
- ③廃棄物削減への取り組み：機器類に含まれている金属や、紙・プラスチック類の再資源化、分別の徹底と従業員教育を行っています。
- ④環境品質マネジメントシステムの発展運用：外部機関による定期監査、並びにシステム運用の改善を行うと共に、研究・開発テーマに反映させています。

今後も環境に配慮し、地域社会の皆様と良好なコミュニケーションを図りながら、研究開発活動を推進してまいります。この「サステナビリティレポート 2014」により、私共の環境への積極的な取り組みをご理解いただくと共に、皆様からのご指摘、ご意見、ご指導を賜れば幸いと存じます。

2014年8月

富士フィルム株式会社
R&D統括本部
高機能材料研究所長

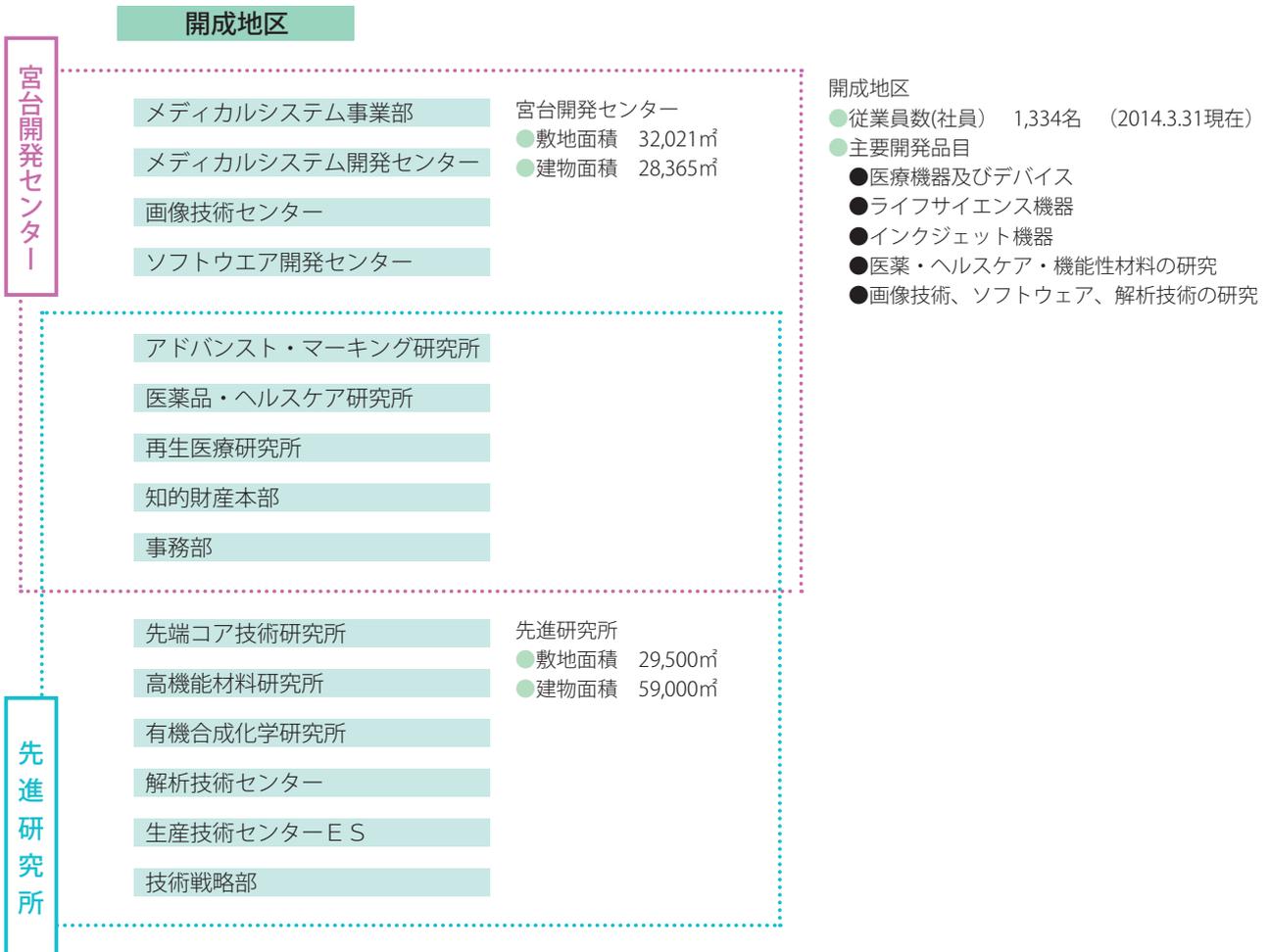


伊藤 忠

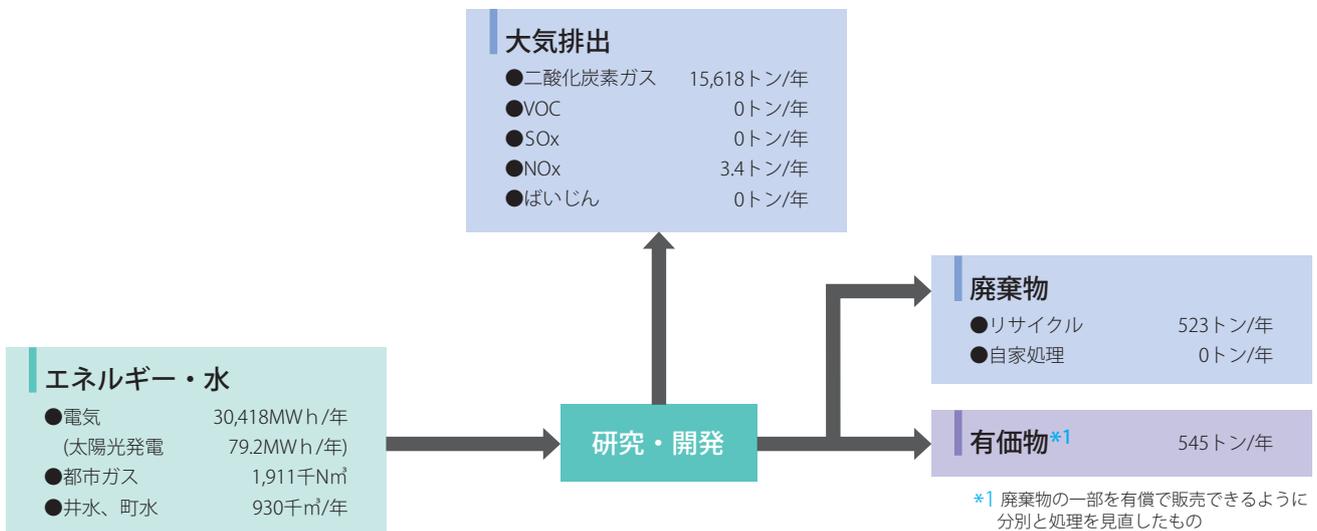
概要

組織の概要／環境負荷

創立 1981年10月16日
 組織 (2014年3月31日現在)



環境負荷概要(2013年度)



概要

開成地区環境方針

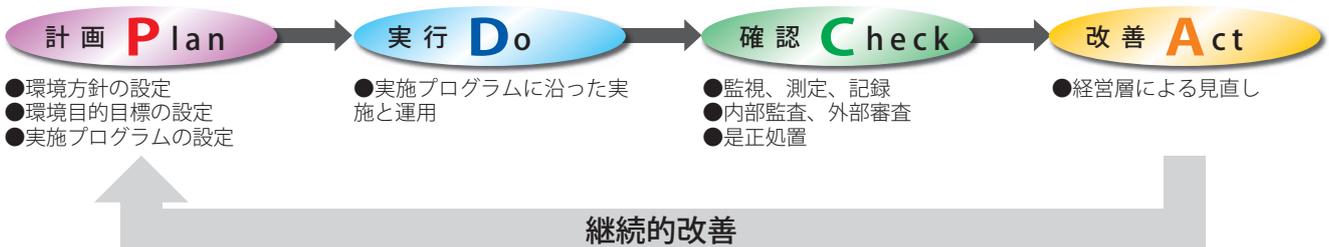
自然環境との調和及び地域社会との共生を大切に、健全な環境の維持・向上を図るための環境管理活動を最重要課題の一つとして掲げ、下記の項目を定める。

1. 事業活動を通じた環境負荷の削減
2. 環境マネジメントシステムの継続的改善
3. 環境法規・同意した協定の順守
4. 地域社会への汚染の予防と防止
5. 環境改善に対する認識と技能の向上
6. 地域社会との良好なコミュニケーションの確保

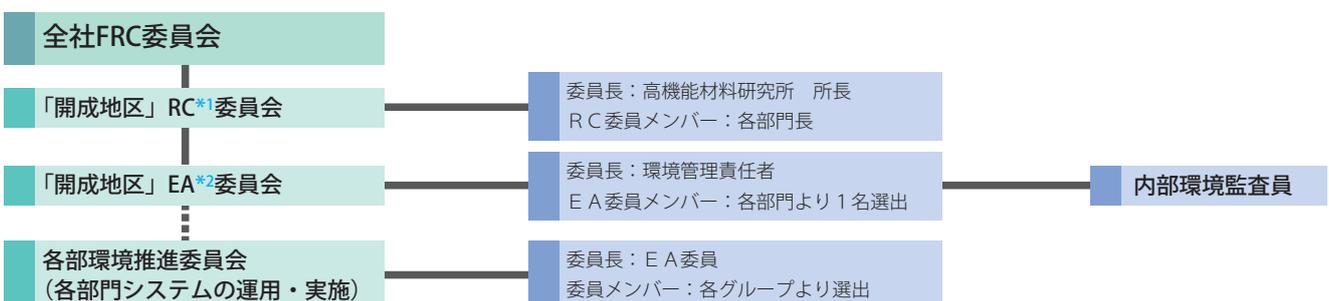
環境活動と成果の概要

項目	目標	2013年度実績
開発商品の環境パフォーマンスの改善	1) 海外法規制対応 欧州RoHS指令	●医療機器の欧州RoHS指令適合を達成。 ●鉛フリー化製造ラインの構築。
	2) 製品環境負荷の低減	●商品化計画の節目で製造用途化学物質のリスクアセスメントを実施。
省エネCO ₂ ガス排出削減、資源の有効活用	1) CO ₂ 排出量 (電気、熱エネルギー)の削減	●エネルギー使用量絶対値の対前年1%削減を達成。 ●先進研究所：全体空調の温度・露点を外気と連動させて省エネ機能を強化する設備改造を実施。個別空調に省エネ制御機能を追加。 ●宮台開発センター：一部建屋の蛍光灯のHfインバータ化・LED化と、エレベータのインバータ化を実施。個別空調に省エネ制御機能を追加。
	2) 廃棄物の増加抑制	●廃棄物発生量の対前年4.6%削減を達成。 ●廃棄物の分別見直しによる有価物化を推進。
環境汚染リスクの低減	1) 環境異常ゼロ化と緊急対応力強化	●環境異常0件を達成。 ●排水廃液管理基準を改定。 ●老朽配管の修理・点検を実施。 ●構内排水異常発生を想定した対応訓練を実施。
	2) 化学物質管理方法の強化	●化学物質管理責任者に力量向上教育を実施。 ●化学物質管理データベースの充実。
環境ISO活動の継続的改善	1) 法的およびその他組織の定めた事項の遵守強化	●各部の環境担当者に対して、水濁法の教育を実施。 ●新入社員及び異動者への環境教育を実施。
	2) 社内外コミュニケーション強化	●富士フィルムグループ3社共同の地域住民向け環境報告会を開催。 ●富士フィルムグループ3社共同のボランティア清掃を実施。 ●2013年度サステナビリティレポートの発行。
	3) 固定資産管理の継続的改善	●内部固定資産監査を実施。

環境マネジメントシステム (ISO14001) の仕組み



環境マネジメント組織体制

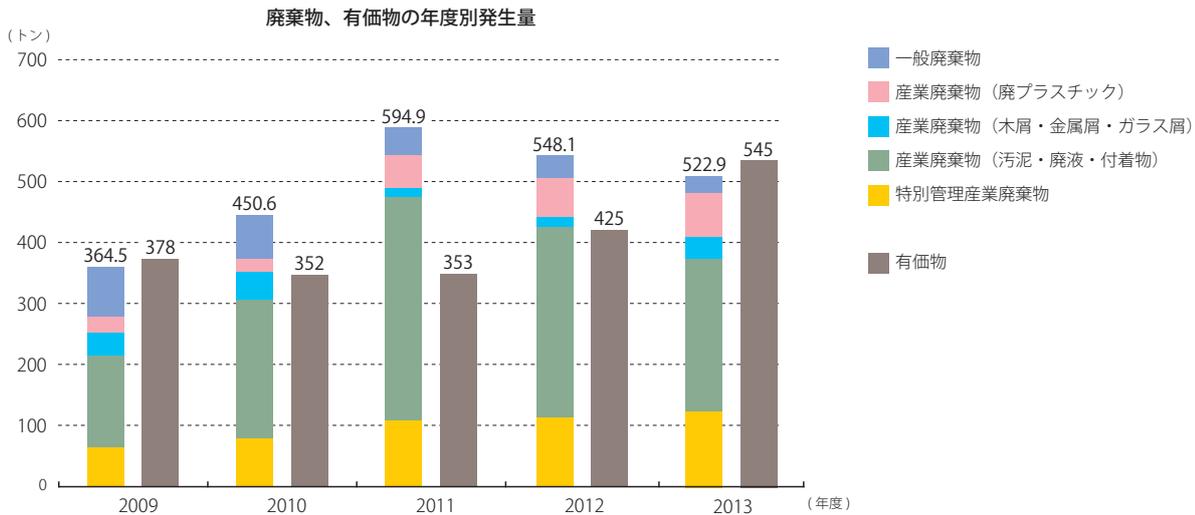


*1 RC: Responsible Care
*2 EA: Environmental Association

廃棄物発生量

近年の研究拡大により廃棄物量は増加傾向にありましたが、削減の取り組みにより2012年以降は減少に転じています。

また、削減の取り組みと平行し、廃棄物の有価物化についても推進しております。2014年度も医薬品開発を中心とした商品化研究強化に伴う廃棄物量増加を見込んでおりますが、分別徹底・有価物化の更なる促進により2013年度の廃棄物量維持を目指します。



環境測定 (P5、P6) 測定点



環境関連法規の遵守状況

水質

地下水系

項目	県条例値	単位	宮台開発センター				先進研究所			
			2012年11月		2013年11月		2012年12月		2013年11月	
			No1	No2	No1	No2	No1	No2	No1	No2
カドミウム	0.01	mg/l	不検出 (<0.0003)		不検出 (<0.0003)		不検出 (<0.0003)		不検出 (<0.0003)	
シアン化合物	検出されないこと	mg/l	不検出		不検出		不検出		不検出	
有機りん化合物	—	mg/l	不検出 (<0.01)		不検出 (<0.01)		不検出 (<0.01)		不検出 (<0.01)	
鉛	0.01	mg/l	不検出 (<0.001)		不検出 (<0.001)		不検出 (<0.001)		不検出 (<0.001)	
六価クロム	0.05	mg/l	不検出 (<0.02)		不検出 (<0.02)		不検出 (<0.02)		不検出 (<0.02)	
ひ素	0.01	mg/l	不検出		不検出		不検出		不検出	
総水銀	0.0005	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)	
アルキル水銀	検出されないこと	mg/l	不検出		不検出		不検出		不検出	
P C B	検出されないこと	mg/l	不検出		不検出		不検出		不検出	
トリクロロエチレン	0.03	mg/l	不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)	
テトラクロロエチレン	0.01	mg/l	不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)	
ジクロロメタン	0.02	mg/l	不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)	0.0001
四塩化炭素	0.002	mg/l	不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)	
1,2-ジクロロエタン	0.004	mg/l	不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)	
1,1-ジクロロエチレン	0.02	mg/l	不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)	
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	mg/l	不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)	
1,1,1-トリクロロエタン	1	mg/l	不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)	
1,1,2-トリクロロエタン	0.006	mg/l	不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)	
1,3-ジクロロプロペン	0.002	mg/l	不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)	
チウラム	0.006	mg/l	不検出 (<0.0006)		不検出 (<0.0006)		不検出 (<0.0006)		不検出 (<0.0006)	
シマジン	0.003	mg/l	不検出 (<0.0003)		不検出 (<0.0003)		不検出 (<0.0003)		不検出 (<0.0003)	
チオベンカルブ	0.02	mg/l	不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)		不検出 (<0.0005)	
ベンゼン	0.01	mg/l	不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)		不検出 (<0.0001)	
セレン	0.01	mg/l	不検出 (<0.002)		不検出 (<0.002)		不検出 (<0.002)		不検出 (<0.002)	
ほう素	1	mg/l	0.007	0.018	0.006	0.018	0.034	0.036	0.036	0.039
ふっ素化合物	0.8	mg/l	不検出 (<0.08)	0.17	不検出 (<0.08)	0.16	0.14	0.12	0.009	0.009
硝酸性窒素 + 亜硝酸性窒素	10	mg/l	不検出 (<0.04)	0.82	0.5	1.12	2.17	2.90	1.92	2.62

県条例値：神奈川県生活環境の保全等に関する条例施行規則による

公共河川放流系

項目	法基準値	県条例値	調査頻度回数	単位	宮台開発センター		先進研究所	
					2012年度	2013年度	2012年度	2013年度
					年間平均値	年間平均値	年間平均値	年間平均値
水素イオン濃度 (pH)	5.8 以上 8.6 以下	5.8 以上 8.6 以下	4 回 / 年		7.4	7.6	7.6	7.7
生物化学的酸素要求量 (BOD)	160	15	12 回 / 年	mg/l	0.1	0.2	1.0	0.1
化学的酸素要求量 (COD)	-	15	12 回 / 年	mg/l	0.3	0.7	0.4	0.6
浮遊物質 (SS)	200	35	12 回 / 年	mg/l	0.8	0.9	1.0	1.4
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (動植物油脂類含有量)	30	3	12 回 / 年	mg/l	1 未満	1 未満	1 未満	1 未満
フェノール類含有量	5	0.005	2 回 / 年	mg/l	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満	0.003 未満
銅含有量	3	1	2 回 / 年	mg/l	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満
亜鉛含有量	5	1	2 回 / 年	mg/l	0.03	0.015	0.05	0.001
溶解性マンガン含有量	10	0.3	2 回 / 年	mg/l	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満
六価クロム	2	0.05	2 回 / 年	mg/l	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
窒素含有量	-	-	2 回 / 年	mg/l	2.0	2.0	2.2	2.6
磷含有量	-	-	2 回 / 年	mg/l	0.10	0.09	0.13	0.14

下水道系

項目	法基準値	開成町条例値	調査頻度回数	単位	宮台開発センター		先進研究所	
					2012年度	2013年度	2012年度	2013年度
					年間平均値	年間平均値	年間平均値	年間平均値
水素イオン濃度 (pH)	-	5 を超え 9 未満	4 回 / 年	mg/l	7.7	7.9	7.8	7.8
生物化学的酸素要求量 (BOD)	-	600	4 回 / 年	mg/l	53	37.5	70	40.5
浮遊物質 (SS)	-	600	4 回 / 年	mg/l	30	58.75	79	42
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (動植物油脂類含有量)	-	30	4 回 / 年	mg/l	4.0	2.9	2.7	1.7
フェノール類含有量	0.5	0.5	4 回 / 年	mg/l	0.016	0.0075	0.0145	0.0048
銅含有量	1	1	4 回 / 年	mg/l	0.05 未満	0.05 未満	0.025	0.0475
亜鉛含有量	1	1	4 回 / 年	mg/l	0.07	0.1025	0.23	0.10
溶解性マンガン含有量	1	1	4 回 / 年	mg/l	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満	0.02 未満
六価クロム	0.5	0.5	4 回 / 年	mg/l	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
窒素含有量	-	-	4 回 / 年	mg/l	12.2	12.8	19.1	13.0
磷含有量	-	-	4 回 / 年	mg/l	0.91	1.12	1.91	0.87

大気

主な項目	法令基準値	宮台開発センター			先進研究所		
		2011年度	2012年度	2013年度	2011年度	2012年度	2013年度
NOx(窒素酸化物) ppm	60	33	34	33	23	35	36
SOx(硫黄酸化物) Nm ³ /h	—	不検出*1	不検出*1	不検出*1	不検出*1	不検出*1	不検出*1
ばいじん g/Nm ³	0.1	不検出*2	不検出*2	不検出*2	不検出*2	不検出*2	不検出*2

法令基準値：大気汚染防止法施行規則による

*1 < 0.1Nm³/h *2 < 0.0001g/Nm³

VOC

(単位：μg/m³)

測定地点	メチルエチルケトン			トルエン		
	2011年5月	2012年5月	2013年5月	2011年5月	2012年5月	2013年5月
宮台開発センター内 A地点	7.9	2.2	不検出	10.9	4.7	7.8
先進研究所内 B地点	0.4	0.1	不検出	15.0	8.2	4.6
開成地区東側 C地点	0.4	0.3	不検出	25.0	17.0	4.0
開成地区南側 D地点	0.5	0.1	不検出	13.0	14.0	3.1
開成地区西側 E地点	0.2	不検出	不検出	7.2	4.9	4.4
開成地区北側 F地点	0.6	0.5	不検出	16.0	7.1	3.5
影響圏外 G地点	0.3	0.2	不検出	7.4	4.3	1.9
(参考) 神奈川県内一般環境 (神奈川県環境科学センターデータより)	0.85 ~ 7.6 (調査年 1995)			4 ~ 48 (調査年 1998)		

不検出：< 0.1



騒音・振動・臭気

騒音レベル

宮台開発センター					先進研究所				
測定地点	測定日	測定開始時刻	県条例規制基準値 (dB)	騒音レベル (dB)	測定地点	測定日	測定開始時刻	県条例規制基準値 (dB)	騒音レベル (dB)
No.1	2012/4/19	15:50	75	51	No.A	2012/4/19	17:12	62.5	43
		21:20	65	49			23:43	52.5	37
No.2	2012/4/19	15:33	75	58	No.B	2012/4/19	16:54	62.5	54
		22:07	65	53			23:31	52.5	50
No.3	2012/4/19	15:14	65	55	No.C	2012/4/19	16:36	65	46
		21:52	55	49			23:19	55	44
No.4	2012/4/19	16:07	65	47	No.D	2012/4/19	17:30	65	49
		21:35	55	45			23:06	55	47

振動レベル

宮台開発センター					先進研究所				
測定地点	測定日	測定開始時刻	県条例規制基準値 (dB)	音圧レベル (dB)	測定地点	測定日	測定開始時刻	県条例規制基準値 (dB)	音圧レベル (dB)
No.1	2012/4/19	15:50	70	30未満	No.A	2012/4/19	17:12	65	30未満
		21:20	65	30未満			20:53	60	30未満
No.2	2012/4/19	15:33	70	30未満	No.B	2012/4/19	16:54	65	30未満
		22:07	65	30未満			20:38	60	30未満
No.3	2012/4/19	15:14	65	30未満	No.C	2012/4/19	16:36	65	30未満
		21:52	60	30未満			20:21	60	30未満
No.4	2012/4/19	16:07	65	30未満	No.D	2012/4/19	17:30	65	30未満
		21:35	60	30未満			20:05	60	30

臭気指数 (3点比較式臭袋法)

宮台開発センター						先進研究所					
測定地点	採取日	採取時刻	県条例規制基準値 (臭気指数)	臭気指数	臭気濃度	測定地点	採取日	採取時刻	県条例規制基準値 (臭気指数)	臭気指数	臭気濃度
No.1	2012/4/19	14:29	15	10未満	10未満	No.A	2012/4/19	13:42	15	10未満	10未満
No.2	2012/4/19	14:23	15	10未満	10未満	No.B	2012/4/19	13:37	15	10未満	10未満
No.3	2012/4/19	14:10	15	10未満	10未満	No.C	2012/4/19	13:32	15	10未満	10未満
No.4	2012/4/19	14:33	15	10未満	10未満	No.D	2012/4/19	13:49	15	10未満	10未満

化学物質の管理

開成事業場では、研究開発などで使用する多くの化学物質について、危険・有害性情報・法規制情報などから、富士フイルム独自の基準に基づいてランク分けしています。さらに、労働安全・環境安全・製品安全・廃棄物管理など総合的な観点で、化学物質の購入・受入～研究・開発～廃棄に至る全工程のリスクを評価し、リスク低減、管理基準を決定した上で、製品を作っていくシステムを構築し、実施しています。

ランク分け化学物質分類の詳細

管理内容	ランク分け化学物質分類の詳細				
	C 0	C 1	C 2	C 3	C 4
使用禁止	○	-	-	-	-
中止・使用削減・排出削減の計画立案と実施	-	○	-	-	-
密閉化又は限定管理の実施 ^{*1}	-	○	○	-	-
リスク評価に基づく管理	-	○	○	○	-
一般管理（法対応及び社内用 SDS に基づく管理）	-	○	○	○	○
代替化、使用・排出・暴露量低減等を目標とする研究開始、保護具等の防護措置	S 分類化学物質 ^{*2}				

^{*1} 使用職場・量・目的の限定

^{*2} 法規制や有害性などが確立していないが、リスクが懸念され、今後何らかの規制が加えられる可能性のある科学物質。内分泌攪乱化学物質（いわゆる環境ホルモン）などがこれに該当

PRTR

2008年に「特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)」が改正され、対象物質の変更に伴い、人の健康・生態系への影響を生じる恐れがある化学物質の環境中への排出量（1トン以上）の行政届出対象も変わりました。開成地区では、PRTR届出対象になっている物質だけではなく、自主的に管理する物質を加えて排出・移動量の管理を進めています。

年間使用量1トン以上の第一種指定化学物質： n-ヘキサン、クロロホルム、トルエン
自主管理物質：メチルエチルケトン、アセトン、アンモニア他

環境年表

- 1981年 ・ 宮台技術開発センター設立
- 1998年 ・ 環境マネジメントシステム (ISO14001) 認証取得
- 2005年 ・ 環境マネジメントシステム (ISO14001) の2004年版対応完了
- 2007年 ・ 環境マネジメントシステム (ISO14001) 登録名を「開成事業場」と改め、適用範囲に先進研究所を含め継続認証取得

省エネルギー活動とCO₂排出量削減、資源の有効活用

【目標】原単位対前年度比1%削減(実質床面積換算の環境効率)

2013年度実績

CO₂排出量は、2012年度に対し190トン減少し、実装床面積(実験室・居室など)で規格化した環境効率を採用したCO₂原単位は約3%減少(対2000年度CO₂原単位としては47%から46%に減少)しました。

その結果、CO₂排出量削減目標であり省エネ法で求められる、原単位対前年度比1%以上削減を達成しました。

●宮台開発センターでは、組織変更による人員の増加及び研究設備の高負荷実験機の増設によりCO₂排出量が約2%増加しましたが、以下の施策により環境効率は1.7%改善しました。

- ①B棟FLRタイプ蛍光灯約700台をHfインバータタイプへ老朽更新、C棟・D棟蛍光灯約1100台をLEDタイプへ老朽更新。
- ②D棟エアコンに省エネ制御装置導入。
- ③事業場全職場での照明の間引き・居住エリアエアコンの室温20℃から28℃以内は停止・OA機器の省エネ設定等省エネ活動の継続。

●先進研究所では以下の施策により、CO₂排出量絶対量は2.7%減少し、環境効率も3.8%向上しました。

- ①共有空調設備の温湿度を外気条件に連動させて設定値変更する省エネ制御及び中間季の加湿停止の実施及び機能アップによる省エネ強化。
- ②事業場全職場での照明の間引き・居住エリアエアコンの室温20℃から28℃以内は停止・OA機器の省エネ設定等の省エネ活動の継続。

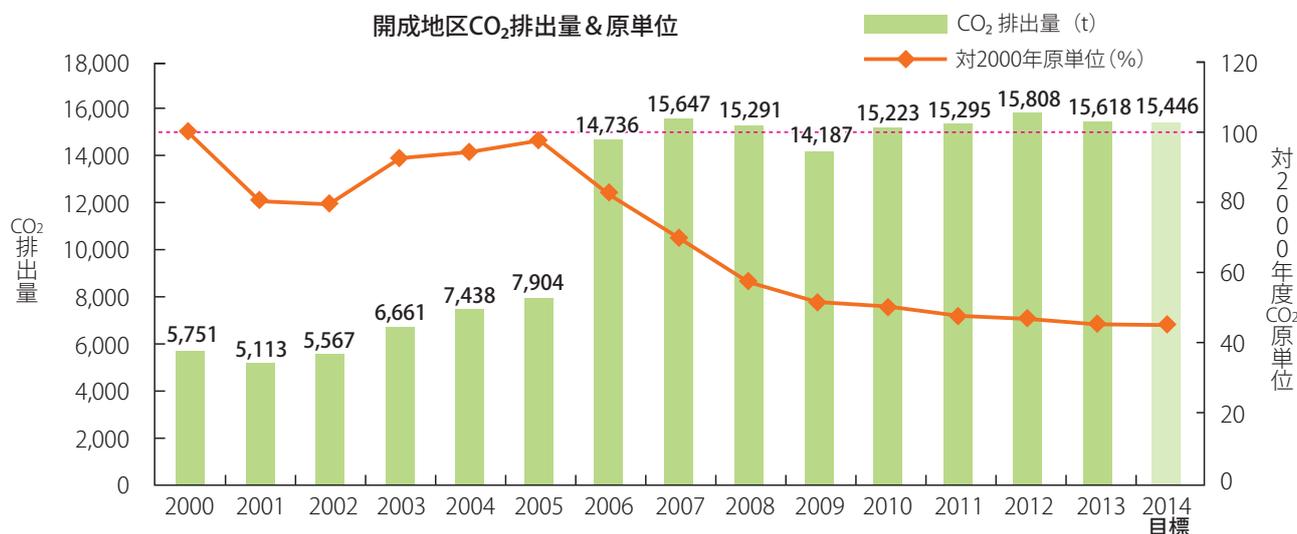
2014年度計画

●宮台開発センターは従来タイプ蛍光灯を省エネ効果の優れるLEDタイプに老朽更新と、恒温恒湿室の老朽更新による省エネタイプ導入などにより、対前年比1%のCO₂排出量原単位削減を目指します。

●先進研は共有空調設備の温湿度を外気条件に連動させて設定値変更する省エネを、未実施のクリーンルームにも展開することと、純水製造装置などの運転条件見直しによる省エネ強化を図り対前年比1%のCO₂排出量原単位削減を目指します。

●開成地区内各エリア毎の電力量の見える化により、各職場の省エネルギー活動を推進します。

上記施策を合わせて、CO₂原単位(実装面積換算)は省エネ法で求められている過去5年間平均で毎年1%以上削減を達成する見込みです。



環境保全

排水訓練（6月、11月）

排水トラブルを想定し、緊急時対応訓練を定期的に行っております。対応手順書に基づき、敷地外への流出を迅速に防止できるように、具体的な事故を想定した実践的な訓練となっております。



オイル漏洩防止（随時）

車両からのオイル漏洩防止のために、出入り業者への啓蒙活動や早期発見のための巡視強化などを積極的に行っております。



地域とのコミュニケーション

事業場周辺の構外美化清掃（毎月）

月に1度、多くの従業員が参加して、事業場周辺の公道のゴミを拾う美化清掃を行っております。



環境美化ボランティア活動 「3社合同グリーンAID」



富士フィルムグループ3社合同グリーンAID（11月）

「かいせいクリーンデー」に呼応する活動として、2013年11月には、富士フィルムグループ開成地区3社（富士フィルム・富士ゼロックス・富士フィルムテクノプロダクツ）の従業員と家族、協力会社の方も含めて総勢約130名が参加し、「富士フィルムグループ3社合同グリーンAID」を開催しました。各社事業場がある開成町、南足柄市で合計4ルート、それぞれおよそ3kmを設定し、歩道周辺のゴミを回収しました。今後も地域活動と連携・呼応した環境活動を推進し、事業場周辺の美化と従業員の環境意識の向上に努めてまいります。



平成25年11月16日、富士フィルムグループ開成地区3社（富士フィルム、ゼロックス、テクノプロダクツ）の従業員と家族、協力会社の方も含めて総勢約130名が参加し、イベントを開催しました。

当地区では、近隣自治会、自然の存続の地帯清掃を目的とし、南足柄市への清掃や、自治会行事への参加を機動的に行なっており、今回行った自治会との環境美化活動は、関係がゆかりの深い「開成グリーンデイ」に呼応する活動として、一歩でのグリーンイベントを企画することをお考えしました。

いつもはきれいに暮らしている環境でしたが、注意して見ると、想像できないくらいゴミが落ちていたり、ゴミが落ちていたりするところも多かったです。みんなで協力してきれいにしました。

子どもと一緒に参加できたことで、「ゴミが落ちていない」といって自分では気づけなかったゴミも発見することができました。自分では気づけなかったゴミも発見することができました。自分では気づけなかったゴミも発見することができました。

当日は、各事業場がある開成町、南足柄市で4ルート、それぞれおよそ3kmを設定し、歩道周辺のゴミを回収しました。この活動を通じて、地域への貢献とともに参加された方々の環境に対する意識向上にもなりました。

近隣自治会との意見交換会（6月）

2012年より、富士フィルムグループ開成地区3社（富士フィルム・富士ゼロックス・富士フィルムテクノプロダクツ）による近隣自治会との意見交換会を実施しております。2013年は近隣住民の方28名にご参加いただき、意見交換・環境報告を実施いたしました。この地域で企業活動をさせていただくことに感謝し、今後も継続して環境保全と地域貢献に努めていくことをお伝えしました。



地元小学生への科学教室（8月）

地域貢献活動の一環として、先進研究所にて地元小学生を対象とした科学教室を実施しました。「科学ってすごい!」をテーマとし、科学実験や研究所の見学、研究者との話し合いをプログラムに取り入れ、科学の面白さ、奥深さを伝えました。参加した小学生は興味深げに一つひとつの実験に取り組んでいました。



労働安全

総合防災訓練（5月、10月）

従業員への避難経路の周知徹底や、確実な人員確認を重点項目として、毎年5月と10月に総合防災訓練を行っています。負傷者の救護訓練や火災を想定した放水訓練など、実際に災害が起こった場合を想定した実践的な内容となっております。



メンタルヘルスケア講演会

従業員のこころの健康づくりのために、毎年メンタルヘルスケア講習会を実施しております。2013年は一般従業員に対して「アサーション」をテーマに、臨床心理士と産業医による講習会を実施しました。2014年以降も引き続き、従業員を対象としたセミナーを実施してまいります。



※アサーション：自分と相手の双方を尊重しながら、自分の意見や考えを率直に自己表現すること。

消火技術競技大会（11月）

毎年、あしがら防火安全協会主催の消火技術大会に出場しております。当事業場からは消火隊が参加し、消火器や消火栓の正確な使い方と鎮火までの時間を競いました。



禁煙活動

従業員の健康づくりのため、禁煙活動を推進しております。H25年度は毎月22日をスワンスワン（吸わん吸わん）デーとし、就業時間内禁煙を推進していましたが、H26年6月より毎週水曜日を禁煙デーとし、就業時間内禁煙を拡大しております。また、H26年度も昨年度に引き続き事業場内に禁煙外来を設置しており、禁煙に取り組む従業員が増えてきました。

全社禁煙活動推進のお知らせ

下記の全社施策が実施されることになりましたのでお知らせいたします。

- ① 6/1より生協売店でのタバコの販売が中止になります。
- ② 6/1より毎週水曜日が禁煙デーになります。
<開成地区 禁煙時間> □ 毎週水曜日 □ 8:10 ~ 16:50 (定休を除く)
- ③ 6月より毎月22日の禁煙チャレンジデー（スワンスワンデー）を廃止します。
※ ②の毎週水曜日の禁煙デーに移行します。
- ④ H27年1月より全営業日が就業時間中は禁煙となります。

禁煙外来を随時受け付けております。ご予約は健康推進室まで！
 自己負担は12,000円~19,000円ですが、今なら卒業達成額に
 FF創保組合より10,000円のキャッシュバックが受けられます。



FF全社禁煙活動推進プロジェクト

交通安全キャンペーン

富士フィルム開成地区3社（富士フィルム・富士ゼロックス・富士フィルムテクノプロダクツ）で、春/秋/年末の「全国交通安全週間」の時期にあわせて「交通安全キャンペーン」を実施しております。神奈川県警のご協力もいただき、事業場入り口や周辺の道路に立ち、交通安全を呼びかけました。



富士フィルムグループ 交通安全運動キャンペーン実施中！

2013年4月6日~2013年4月15日

- ① 各社正門前ののぼり旗設置（期間中）
- ② 立哨による啓発活動（4/8~4/10）
- ③ 松田警察署による注意喚起（4/10）
- ④ キャンペーン実施ポスターの掲示（期間中）



FUJIFILM FUJI XEROX



〔表紙について〕

「未来に向けて吹く風」をコンセプトに
先進技術と環境の融合を表現しました。

FUJIFILM

富士フイルム株式会社

開成地区 | 宮台開発センター
〒258-8538 神奈川県足柄上郡開成町宮台 798

先進研究所
〒258-8577 神奈川県足柄上郡開成町牛島 577

本レポートに関するご意見・お問い合わせは、下記までお願いいたします。
R&D 統括本部 事務部 環境・安全グループ
TEL：(0465) 86-1116
FAX：(0465) 86-1003

「富士フイルムホールディングス サステナビリティレポート2014」も
併せてご覧いただければ幸いです。
<http://www.fujifilmholdings.com/ja/sustainability/report/index.html>

発行 2014年8月31日